



WILLER株式会社

ベトナム/ハノイ市南部都市間バスターミナルにおける旅客および貨物輸送（貨客混載）プラットフォームDX事業

本事業の目的

事業の目的はベトナムの都市間バスターミナルにおける旅客及び、貨物輸送プラットフォームのDX化を目的としたシステム開発、プラットフォーム導入による、ベトナムにおける貨客混載の実現とそれを通じた経済活性化である。本実証では貨客混載のプラットフォーム構築、データ活用により、業務効率化及び、貨客混載、共同配送での収益の向上により課題解決を目指すものである。

現地企業や政府との協力・連携

現地パートナーとしては、ハノイ市南部の大型都市間バスターミナル（ヌクナムバスターミナル）と協力して本実証実験にあたった。また当社の現地子会社であるWILLER VIETNAM、及びベトナムのタクシー最大手のMai Linh Groupと当社との合併会社であるMai Linh WILLERと連携して確実な実施体制を整えた。

WILLER株式会社（日）

Water and Environment Development and Investment Joint Stock Company（越）

MAI LINH GROUP CO.,LTD（越）

ベトナム自動車運輸協会（越）

現地の経済・社会課題

ベトナムは2018年に人口が9,500万人を超え、その後も増加傾向にあり、2030年頃には1億人を越えるとみられている。経済面では2014年に一人当たり名目GDPが2,000US\$を突破し、2022年には3,400US\$程度になると予測されており、人口及び経済の面で魅力ある市場である。また近年急速な経済発展により所得水準が上がっており、特に中間所得層（世帯所得5,000～34,999US\$）の割合が2000年の約11.7%から2020年には約51.9%と大きく上昇している。それに伴い人々の関心が安全・安心に集まってきている。

ベトナムでは所得増加に伴い、特に安心できる新鮮な食材へのニーズが高まっているが、食材サプライチェーンの多くは手作業となっており結果、新鮮な食材が手に入りやすく、ロジスティックコストが高いという課題がある。またコロナ禍では交通事業者の売上は激減し、旅客だけでは事業の継続が厳しい状況にあった。2024年現在もその回復は立ち遅れており売上改善方策が求められている。

当社は2016年にベトナムに子会社を設立し、現在では3社の現地グループ会社があり、現地でビジネスを進めていく知見及び経験、人材が蓄積されている。これらのことからベトナムでの社会課題はもとより、本実証及びその後の事業化の実現性もふまえ、実施国としてベトナムを選定した。



WILLER株式会社

ベトナム/ハノイ市南部都市間バスターミナルにおける旅客および貨物輸送（貨客混載）プラットフォームDX事業

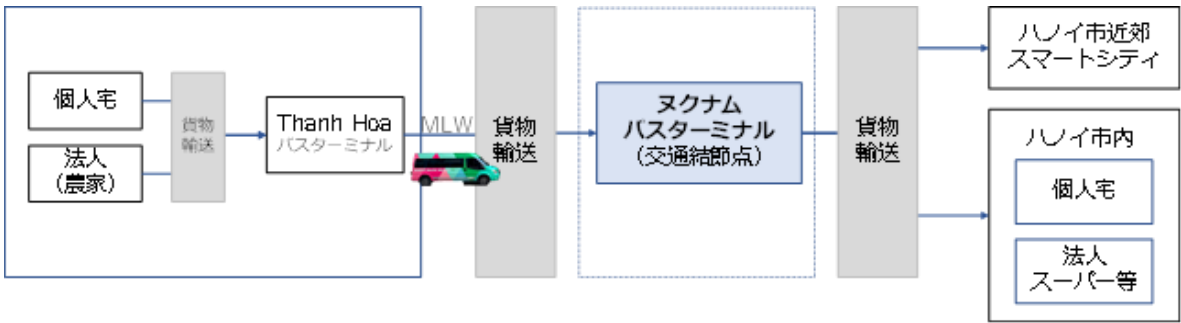
実証期間

2022年10月～2023年12月

実証した内容

本実証では当社グループが開発しているASEAN WiLLシステムを活用し、都市間バスターミナルを中心とした旅客及び、貨物輸送のプラットフォームを構築・運用した。そのデータを活用することで、顧客へは輸送ルートが明確で新鮮な食材をオーダーできる仕組みの提供を目指して、本実証では貨客混載が可能なプラットフォームによる運輸事業者のデジタル化による業務効率化及び貨客混載を図った。

オペレーションのフローを下図に示す。Mailinh-WILLERが都市間バスを運行するThanh Hoa=Ha Noi間で、ASEAN WiLLを活用した貨客混載事業を実証運行した。



事業の成果/今後の予定

【事前調査】

まず対象国の貨客混載オペレーションの詳細を確認した。ベトナムでは貨客混載は多くが手作業で運用されている。①バイクでバスターミナルに乗り付けて野菜の箱をバスに積み込み、②その場で現金で支払いをし、③受付順に、荷室に空きのあるバス便に詰め込む運用がなされている。システム化による省力化や、トラッキングによる信頼性向上が求められる環境であることが明らかとなった。

【成果】

ユーザーインターフェースの使い勝手やリアルタイムな可視化の可能性が確認された。将来的に市場全体として荷物取扱量が増え、業務負荷が高まるとシステムによる業務効率化の効果が大きいと見込む。

また、本実証では都心部のカフェや小売店での荷物取扱いを導入した。これにより、郊外部のバスターミナルでの荷受けのデメリット低減を低コスト（都心部の地代を分担できるため）で導入可能であることが分かった。あわせて、ラストワンマイル区間でのバイク便との連携も導入して利便性向上を図った。

【今後の活動】

今回の実証で得ることができたデータを元に、事業化に向け収支試算を精緻にしていく。同時に、車両稼働の効率化や差別化等の売上につながる事業との組み合わせの検討を進める。本システムのベトナム国内の他エリア及び、ASEANへの展開についても検討を進める。